



白聖はくあ 第3号 令和5年5月15日発行



【総合型選抜・学校推薦型選抜について】

《一人ひとりの能力や経験を評価する入試》

「高校3年間のうち、チームで取り組んだことを一つ挙げて、そのチームでの自分の役割を説明して下さい。」と聞かれたらあなたはどう答えますか。これは実際の大学入試で聞かれたことです。大学が求めているのは、基礎学力を備えていることは前提とした上で、高校での学びや活動を自分の物語として表現できる力を持っている人です。そのため、学校生活の中で自分は他者とうまく関わったのか・自分の役割は何だったか・どれだけ頑張れたかなどを振り返り・省察し、言語化する機会を定期的に設けてみましょう。

大学は、選抜での能力・意欲・適性等の評価・判定に当たってはアドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する特に重要な以下の3つの要素のそれぞれを適切に把握するよう十分留意する。その際、入学後の教育との関連を十分に踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。と言っています。

3つの要素とは、以下の通りです。

- ①基礎的・基本的な知識・技能
- ②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

《総合型選抜とは》

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法です。

文部科学省では以下のように発表しています。入学志願者自らの意志で出願できる公募制という性格に鑑み、入学志願者本人の記載する資料（入学志願者本人が記載する活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書等）を積極的に活用する。また、総合型選抜の趣旨に鑑み、合否判定に当たっては、入学志願者の能力・意欲・

適性等を多面的・総合的に評価・判定する。加えて、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力も適切に評価するため、調査書等の出願書類だけではなく、評価方法等（例えば、**小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等**）又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用し、その旨を募集要項に記述する。

《学校推薦型選抜とは》

出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、以下の2点に留意して評価・判定する入試方法です。

- ① 大学教育を受けるために必要な知識・技能・思考力・判断力・表現力も適切に評価するため、高等学校の学習成績の状況など調査書・推薦書等の出願書類だけではなく、評価方法等又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用し、その旨を募集要項に記述する。
- ② 推薦書の中に、入学志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた3つの要素に関する評価や、生徒の努力を要する点などその後の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。

以上のことから総合型選抜・学校推薦型選抜の受験を考える場合も、**計画的に取り組む必要があります。**

自分自身に明確な志望理由や活動実績がないまま、「何となく受験機会を増やしておくとう利かも」「周りに言われたから受験する」などといった安易な理由で、総合型選抜・学校推薦型選抜の受験を決定してしまうと、志望理由書の作成や面接練習の段階で苦勞してしまう可能性があります。総合型選抜・学校推薦型選抜の対策時間と、一般選抜の対策時間のことを十分に考えた上で、自分自身で受験のする・しないを決断する必要があります。

本当に行きたい大学・学部学科であり、自分自身で本気で入学したい・研究したいという志・望み・夢があるのか、いま一度、熟慮してみてください。

【小論文について】

これまで、どのような人材が求められ、どのように入学者選抜が行われるのかを記載しました。多くの大学では小論文が出題されています。それでは小論文について考えていきましょう。

小論文では自分の主観的な考えを述べるだけでなく、**提示した仮説が論理的に妥当であると考えられる理由を説明する**必要があります。また、小論文試験では、大学での学术论文と同じような、悪戦苦闘しながらも自分なりの見解に到達するという作業がなされているかどうか求められています。論文のポイントは、以下のようものが挙げられます。

- ① 全体を上手くまとめている論理構成
- ② 問題提起→意見表示→理由説明→具体例→結論
- ③ 序論で問いかけ、本論で論証し、結論で問いかけに答える
- ④ 三段論法を用いる（ $A=B$ かつ $B=C$ より $A=C$ と
いったもので、アリストテレスが用いた「ソクラテス」の例文が有名な例としてあります。）

この中で、特に重要なのは序論ではないでしょうか。なぜならば**序論とは、問いを書く段階**だからです。それではなぜ問いが重要なのでしょうか。**論文とは、問いが無ければ書けないもの**だからです。

高校までの「学習」は、これまで人類が獲得してきた知の基礎基本を習得するものに対し、大学での「学問」とは、これまでの人類知にはないことを問うものです。近年では新型コロナウイルスが該当するでしょう。

学問とは、問いを学ぶということです。研究するということは、先人の書いた論文を読み、問いを精査し、自分自身に問いかけ、**自分の論考を完成させる**ことです。そして、独自に調べた内容や研究内容を論文にまとめることになります。小論文試験では、自分の書く答案が単なる知識チェックテストではなく、論考が一定の水準でできるかどうかチェックされているものと考えておきましょう。

また、論文はこう書かなければならないという決まりはないものの、歴史的・伝統的に守られている構成があります。そしてその構成とは、**序論・本論・結論**と言えます。序論には問いを書き、本論には論証を書き、結論には最終結論を書きましょう。また、序論ではどのような問題意識のもとに、どのような仮説を立案するに至ったのかを述べる必要があります。

文章・考察が論理的になる条件としては、

- ① 自説の補強だけに留まらず、反論に対しての解決案が提示されている
 - ② 読み手側が、論理の前提となる「価値観」「事実」「議論の目的」が考察できる内容になっている
- が挙げられます。

なぜこの条件が論理的な文章につながるかというと**漏れなく重複なく**考えられているからです。漏れなく重複なく……。どこかで聞いたことのあるフレーズだと思いませんか。そうですね。数え上げのやり方です。数え上げでは、辞書式配列や樹形図などを用いて、一定の方針で、順序正しく行うことがポイントでした。突然数学の話になって嫌だ・・・と思う人もいるかもしれませんが、小論文は論理的かつ妥当性が高いものである必要があります。数学や法律の世界でも先ほど述べた三段論法を用いて、論理的に考えられています。

与えられた問題に対して、

- ① 問題の正確な把握【目的と条件は何か】
 - ② 自身の立場決定と理論構成【条件からの手法選択】
 - ③ 結論【手法から導き出された解の吟味と、答え】
- という流れになります。

また、論理展開の中で**与えられた文章を論理式にする**（ $A \rightarrow B$ かつ $B \rightarrow C$ より $A \rightarrow C$ ）ことで簡略化することができます。簡略化することにより、本質に気が付きやすくなるだけでなく、内容に間違いが少なくなるという利点があります。